□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名　グループホーム　こまくさ　※

日付　平成18年11月10日

評価機関名　特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　老人保健施設介護実務経験6年、居宅支援事業所介護支援専門員経験6年

評価調査員　ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

「今まで出来ていた事が、認知症になって残念ながら出来なくなったかも知れない。でも認知症になり、素直な自分の気持ちを自然に表現できる方もあり嬉しく思うことがある。認知症になったことをきっかけに、また、新しい可能性も出て来るかも知れない。そして、残された新たな人生を楽し過ごして欲しい。その方の人生歴を理解した上で、今の気持ちをしっかりと受け止め、寄り添っていきたい」と管理者の言葉に納得した。「私は物忘れが天下一品」とおでこをぽ～んと叩く利用者の笑顔を見て、ほっとする。

自分の部屋に、広告に掲載されたアイドルの写真が一杯貼ってある。そのアイドルの顔つきが、同じ雰囲気にまとめられているのに感心する。きっとこの男性利用者は20歳代に戻って楽しんでいるのだろう。高齢者は使い慣れた古いタンスが良いだろうと思いがちであるが、古いタンスと新しいタンスを並べたら、新しい方を選んで使い出したそうだ。一人ひとりの趣向を先入観で判断せず、その人の気持ちを尊重して生活してもらっている一端を見た。

浴室の鏡に映っている姿を見て「誰かが入っているので風呂に入らない」エレベーターの中の鏡に映っている出口を見て「鏡の中の出口を捜す」利用者の戸惑いで鏡を外した。夜眠れない利用者には、眠れる時に寝ればいいと落ち着いてから部屋に戻るようにしてあげる。

認知症の利用者と向き合い、一つ一つの事象に適格に対応しながら、認知症のことを最も理解し、認知症を利用者、職員共に認め合い、「何事も程々、好い加減」を合言葉に「今ここで」を大切に自然なままに楽しく生活している開設6年目のグループホームである。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

① 利用者が重症化していくと、全員での外出や行事に参加が困難になると思う。3階のスペースを活用して、外から人を招いて集会できることも考えられないでしょうか。

② 認知症の理解とケアについて、家族や地域、グループホーム同士の交流で知識や経験を高めているが、先駆者としてグループホームのリーダーとしてますます活動してもらいたい。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

「利用者に自分だけが物忘れがあるんじゃない。それを受け止めてもらい、そして苦しいのは自分だけではない」と。同じ痛みを持つ仲間と共にいる。認知症はあるが、ここで仲間と一緒に新しい生活をスタートし、「今ここで」を大切に一人ひとりの残りの人生を積み重ねていってもらいたい。「ホームの歩みは私の人生。私も楽しんで生きたい」と管理者は言う。また「今どう思って、何がしたいのかを大切にしたい」とも言う。「家に帰っても一人、ここが一番良い」と言う利用者の言葉を聞くと管理者、職員の思いがしっかりと利用者の心に届いていると感じた。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

一人ひとりの利用者が生活している場面をきめ細かく観察し、利用者の不安や混乱を招く原因を臨機応変に取り除いたり、環境を改良して、利用者が安心して過ごしていけるように気を配っている。浴室やトイレ、エレベーター等で1つ1つの備品に対し、利用者の気持を察し環境改善をする。夜に不安を感じる照明等にも配慮して、利用者に我慢させるのでなく、一寸した心遣いで安心して眠れる環境にしてあげる。夜眠れない人に、無理矢理寝てもらうのでなくその人が一番過ごし易い状態をつくってあげ、自然に眠れば良いとの考えで利用者に接している。

これらの空間の活用を見ると、認知症のことを実にうまく理解し、症状に逆らわず、利用者の気持を大切にする職員の対応に感心した。

Ⅲ ケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

動いている方が好きな人は、調理や食器洗いをして、手際良くこなしている。エプロンを着て取り仕切っている人もいる。ボランティアの方かと勘違いするほど。「今までずっと仕事をしてきたので、することがある方が楽しい。役立てるのも嬉しい」と云っていた。重度化に伴って出来る事がだんだん少なくなっているが、野菜の皮むき、味見、野菜切り等、良い表情で仕事をしている。手拍子と共に即興の踊りが出ると、そこにいる利用者を和ましてくれるし、体調不良で休んでいる人も気分がよくなり少し声が出ることもある。利用者の声や動きが他の利用者を勇気付けているのは頼もしい。

利用者への接し方も教科書通りでなくても良い。その人の状態に合わせた対応をしっかりとしている。予定通りいかなくても良い。その場に応じて決めていけば良い。献立も買物に行った時の買物選びで皆で決まる。家庭そのものの生活である。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

このグループホームの管理者や職員の言葉を聞いたり、利用者に接する姿を見ていると、グループホームが「認知症ケアの最先端であるべきだ」という新しい認知症ケアの時代にある地域密着型のケアを見せていただいているという実感を得た。そして、このグループホームで生活している利用者とその家族は、「認知症になっても普通の人として付き合ってもらえ、安心して暮らせる場を得た」と思っているに違いないと思う。

このグループホームの住人も、設立して6年目を迎え、設立当初の人が7割を占めている。この人達も残念ながら、認知症もますます重度化していく。その人達といつまでも心の交流ができるケアが具体的にどのように進められていくのか、その実践が、認知症ケアの足跡をつくっていくことになり、その姿を見つめていけるのを楽しみにしている。